

あいち水循環再生基本構想に関する県民ヒアリングでの発表意見概要（第1回：平成17年11月7日（尾張地域）、第2回：平成17年11月11日（三河地域））

発表者	意見要旨
第1回発表者1 (主婦)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもに、まわりに自然が多くなるということは不便な面も出てくるが、自然と共生していくことのすばらしさを教えてほしい 人が気軽に海とふれあえる場として、干潟を保全してほしい 豊川の水量が今以上に少なくなるとはいけない
第1回発表者2 (個人)	<p>水環境対策として、次の3点を提案</p> <ul style="list-style-type: none"> 杉、檜、竹林を整備し、その間伐材を木炭に加工し、ダムや河川に埋設して水質浄化をする 人工林の間伐後に広葉樹を植林し、水源の森を広げる 環境教育の一環として「どんぐり教室」の開催。苗木から育て、木の成長を観察しながら山への関心を高める
第1回発表者3 (市民団体所属)	<ul style="list-style-type: none"> 共有地の悲劇、コモンズの悲劇に例えられるように、みんなの行為の積み重ねが深刻な不利益を招く 子どもたちの豊かな原体験が重要 各地で、さまざまなグループが流域連携に取り組んでいるが、連携について、人的予算的な措置が必要。 市民参加にはいろいろな形があり協働が最終段階ではない、権限委譲や市民管理という形もあることを理解してほしい フェロシルトのような有害物質に対する仕事は、民間では対応できない、行政の責務を果たしてほしい 地方事務所(現場)への権限委譲、研究機関、大学、流域委員会等との連携をしてほしい
第1回発表者4 (個人)	<ul style="list-style-type: none"> 愛知の汽水域は広大だが、汚濁の状況は目に余るものがある。汽水域の浄化は難しいが、直接浄化の対策が必要だと思う。 多様な生態系について、具体的に何を指標するのが研究してほしい。 めざす姿の具体的な方法として伝統漁を手本とした水遊びを子供達に教えたい。水に親しむのに効果的だと思う。漁を通して、子どもたちに水遊びや食文化について教えられる。 自分が考案したバランストラップ式サイホン管を利用して、雨水貯留装置、浄化装置、排水装置、堰や魚道等への活用できると思う。個人では限界があるので研究してほしい。
第1回発表者5 (学生)	<ul style="list-style-type: none"> 下水処理を水循環システムの一構成要素として捉えることが重要、構想では下水の整備をすることしか書かれていない、下水で一括処理されることによる流れ方の変化について検証する必要がある 雨水をバイパスなどですばやく排除するのではなく、平常時は都市空間で利用し、大雨時は調整池に導入するなど工夫ができないか 生活の中で水の恩恵を考えるため、農業集落排水処理施設やコミプラなどの小規模な処理施設の管理を自分たちで行うシステムができないか 水循環は水だけでなく、物質も循環させている。自然の浄化能力の評価が必要ではないか。また、愛知県だけでなくスケールの大きい物質循環も検討する必要があるのではないか まちづくりにおいては自然条件を考慮すべき。地域ごとの地質などのデータを把握すべきである
第1回発表者6 (市民団体所属)	<ul style="list-style-type: none"> 矢田・庄内川をきれいにする会では、住民・企業・行政が協力して活動を展開している 住民に川の現状を理解してもらうため、釣り大会、水質検査、魚類調査などを実施している 蛇が洞川のオオサンショウウオの生息地の保全、排水基準の強化などが問題である 下水道で一括処理するだけでなく、点源で排水処理し、処理水をその場で戻して水の流れが見えるようにするべきである
第1回発表者7 (市民団体所属)	<ul style="list-style-type: none"> 矢水協の指導を受けながら、矢作川をきれいにする会で活動している。一週間前に矢作古川の沖で赤潮が発生したが、時々海に出て環境をみてほしい。 生活が成り立つのは全てが水の恩恵であり、人と自然との共生が重要 流域の監視パトロール、工場等の監視、上流の子どもたちを潮干狩りに招待、廃油石鹸の普及、三河湾環境観察クルージング、水源林の下草刈り、海岸清掃などを行っている きれいな水には森が一番大切、森の保全に助成金を出せば、若い人たちが山に戻ってくるのではないか
第2回発表者1 (市民団体所属)	<ul style="list-style-type: none"> あさは自然再生というのが重要。それを助けるのが干潟を造るもとなる河川の自然度である。水質だけでなく流下する土砂の量を総合的に管理する必要がある 流入負荷の低減、農業での水使用量の見直しが必要 木曾崎干拓を利用した後背湿地を創出すれば、伊勢湾の水質改善につながる 遠州灘に面した砂浜の侵食が著しい。これはダムの影響で河川から流入する土砂が減ったためである。護岸ブロックは一時的な効果しかなく、ウミガメにも影響がある 河口堰の柔軟な運用をして、水質改善をしてほしい 港湾区域内の環境基準を厳しくしてほしい
第2回発表者2 (市民団体所属)	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全の技術は試行錯誤の段階にあるものが多い。環境部が継続してモニタリングを行い、技術的な見極めをしていただきたい 総論にバーチャルウォーターの視点が落ちている 森林や農地に光が当たっているが、干潟・浅場の位置づけが弱い 循環型社会の考え方を盛り込めないか 水田の一斉代掻き水による白濁水について滋賀県で取組みがなされている。愛知県でも取組んでほしい 浚渫・覆砂は水循環の再生に大きく貢献しているとはいいいがたい 直接浄化対策は、確実に浄化にはつながっていない。この認識は現状把握が不足していると思う 県の研究機関により広く情報を収集・集積し、県民に知らしめるべき 瀬戸での砂利採取や海域での無節操な埋立が問題。これらの法律を見直すべし
第2回発表者3 (市民団体所属)	<ul style="list-style-type: none"> いい構想をつくるのが目的ではなく、在指摘されている課題の解決を実行して実現することが目的であるはず。いつまでに、誰が責任を持って実行するのか。 生活は豊かになったが、環境はどんどん悪くなっている。この構想でよくなるのか 学者や運動している専門家の意見を聞いてほしい 役所には膨大な技術資料があるので、これを活用し、行政が連携して取組みを進めてほしい 基本構想を実現するためには、県民、行政、企業の間で多種多様なパートナーシップの体制の下に進めることが必要。そのため、皆が集まりざっくばらんに話し合える場が必要。
第2回発表者4 (市民団体所属)	<ul style="list-style-type: none"> 環境救済税、環境税の導入を構想に盛り込めないか 県では、環境に配慮した河川整備よりも、道路などが優先される。水循環について県庁一丸となる体制が必要 水循環再生には流域一体となった取組が必要、啓発やPRには資金があるので、行政の支援が不可欠 構想の実現には、行政と県民が同じ目標に向かって取組む体制が必要 水循環再生と継続には、環境教育が一番大事である。環境部と教育委員会が上手に連携し、環境教育を推進することが重要 地元の活動の継続、ボランティア活動の継続にも財政支援が必要 まちおこし、地域の活性化、経済効果につながるような取組みにしてほしい
第2回発表者5 (市民団体所属)	<ul style="list-style-type: none"> 生活排水が川を汚している。都市域は下水道の整備が必要だが、田舎は個別処理をすべき 具体的な数字は難しいと思うが、数字を出しながら構想づくりをすべきである。例えば、環境の予算をどれくらいにするとか、現状の数字を半分にするなどを示せないか 合併処理浄化槽の処理水を地下浸透させたり、一部散水にも使っている。地下水の涵養を進めるべきである 構想に中水道の考えが入っていない。モデル地域で導入について検証してみてもいいか 土壌による浄化技術は進んでいる。愛知県でも技術開発して構想に入れてほしい バーチャルウォーターについては、例えば輸出に係る鉄鋼製品を作るときの水も含める視点が重要である